

## 4-5 覆土工

## (1) 防水工の施工歩掛

防水工の施工歩掛は、次表とする。

表 4.31 防水工施工歩掛 (10m<sup>2</sup> 当り)

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	0.06
トンネル特殊工	〃	0.17
トンネル作業員	〃	0.12

(注) 上表は、裏面排水設置労務を含む。ただし、裏面排水材料は別途計上とする。

## (2) 型枠工歩掛

型枠の移動・据付・脱型作業の編成人員は、次表を標準とする。

表 4.32 型枠の移動・据付・脱型作業の編成人員

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	1
トンネル特殊工	〃	6
トンネル作業員	〃	2

(注) 1. 移動用レール及び枕木の移動、据付も含む。

2. 移動用レール及び枕木の損料は、スライドセントル損料に含まれている。

## (3) 覆工コンクリート打設歩掛

## 1) 覆工コンクリート配合

覆工コンクリートの配合は、現場で試験施工を行って現場配合を決定する。

## 2) 覆工コンクリート打設歩掛

覆工コンクリート打設時の編成人員は、次表を標準とする。

表 4.33 覆工コンクリート打設作業の編成人員

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	1
トンネル特殊工	〃	6
トンネル作業員	〃	2

## (4) 覆工、防水工機械の機種を選定及び機械歩掛

覆工、防水機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 4.34 機種を選定

機種	規格	単位	数量
防水工作業台車	長 4.5m	台	1
スライドセントル	L=10.5m	基	1
コンクリートポンプ車	黒煙浄化装置付 配管式圧送能力 90~100m <sup>3</sup> /h	台	1

(注) 1. スライドセントルは、線形及び現場条件等により標準外になる場合は、別途考慮するものとする。

2. コンクリートポンプ車の作業能力は、17m<sup>3</sup>/h とする。

表 4.35 コンクリートポンプ車

(週/ (トンネル延長) 10m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	C I	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	
	C II	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065		
	D I	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065		
	D II	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065		

表 4.36 スライドセントル

(m/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	C I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	C II	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	D I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	D II	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		

表 4.37 防水作業台車

(m/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	C I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	C II	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	D I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	D II	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		

(5) 材料等歩掛

1) 防水シート

防水シートの使用量は、次表を標準とする。

表 4.38 防水シート

(m<sup>2</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半同時併進工法	C I	18.01	18.80	19.59	20.38	21.17	21.95	22.74	23.53	24.32	25.11	
	C II	18.01	18.80	19.59	20.38	21.17	21.95	22.74	23.53	24.32	25.11	
	D I	18.11	18.83	19.56	20.29	21.02	21.75	22.48	23.21	23.94	24.67	
	D II	18.22	18.98	19.74	20.49	21.25	22.01	22.77	23.53	24.29	25.04	

2) 覆工コンクリート

覆工コンクリートの使用量 (ロス含む) は、次表を標準とする。

表 4.39 生コンクリート (余巻を含む)

(m<sup>3</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半同時併進工法	C I	6.71	7.00	7.30	7.59	7.89	8.18	8.47	8.77	9.06	9.35	
	C II	6.71	7.00	7.30	7.59	7.89	8.18	8.47	8.77	9.06	9.35	
	D I	6.75	7.02	7.29	7.56	7.83	8.10	8.38	8.65	8.92	9.19	
	D II	6.79	7.07	7.35	7.63	7.92	8.20	8.48	8.77	9.05	9.33	

(6) 諸雑費

1) 機械の諸雑費

諸雑費は、パイプレータの損料及び燃料費であり、機械損料及び運転の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.40 (覆工 + 防水) 諸雑費 (その他機械)

(%/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	C I	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	C II	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
	D I	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
	D II	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		

2) 材料の諸雑費

諸雑費は、防水シート設置器具の損料及び妻板、土台、はく離剤等の費用であり、材料費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.41 (覆工 + 防水) 諸雑費 (その他材料)

(%/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	C I	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	C II	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	D I	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	D II	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		

(7) コンクリートの打設

型枠工及びコンクリート工における 1 打設長は、2 日で 10.5m を標準とする。

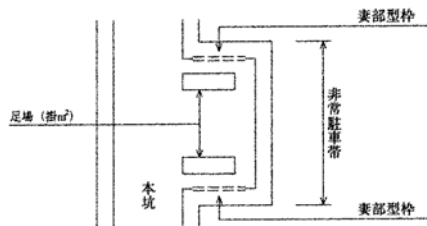
4-6 非常駐車帯

非常駐車帯については、第 IV 編第 5 章 1)-5 トンネル工 (NATM) 非常駐車帯工による。

非常駐車帯と本坑接続部の妻部は、型枠 (無筋構造物)、足場工 (無筋構造物) を計上する。

なお、職種はトンネル職種に読替えるものとする。

図 4.3 非常駐車帯の足場及び妻部型枠



支保工の切断等による補強鋼材は、スクラップ控除する。

4-7 スライドセントル損率

4-7-1 スライドセントル損率

スライドセントル損率は、ガントリ（鋼材）・ジャッキ類等の転用部品を考慮し、次表とする。

表 4.42 スライドセントル損率

延長及び損率用途	巻立施工延長 (m)	損率 (%)
本坑用スライドセントル	500	55
	3,000	90
非常駐車帯用スライドセントル	30	55
	150	90

- (注) 1. 巻立施工延長により、損率は 55% から 90% とする。  
 2. 本坑用 500m 未満、非常駐車帯用 30m 未満の損率は 55% とする。  
 3. 本坑用 3,000m、非常駐車帯用 150m を超えるトンネルについては別途考慮する。

スライドセントル損料算定式  $P \times y$   
 $P$  : スライドセントル基礎価格  
 $y$  : スライドセントル損率

1) スライドセントル損率 (y)

$y = a \times L + b$   $L =$  巻立施工延長

巻立施工延長      500m    1 現場使用で損率 0.55  
                          3000m        "        0.90      } として

定数 a, b を算出する。

$0.55 = 500a + b$       }  $a = 0.00014$   
 $0.90 = 3,000a + b$     }  $b = 0.48$

非常駐車帯用も求める。

$0.55 = 30a + b$         }  $a = 0.00292$   
 $0.90 = 150a + b$       }  $b = 0.4624$

2) 本坑用全断面スライドセントル 1 現場当り損料算定式 (円/1 現場)

$P \times (0.00014L + 0.48)$

3) 非常駐車帯用全断面スライドセントル 1 現場当り損料算定式 (円/1 現場)

$P \times (0.00292L + 0.4624)$

4) スライドセントル枕木とレール

枕木幅 20×厚さ 15×長さ 120 間隔 50cm

$n = (10.5 \div 0.5 + 1) \times 3 \text{ スパン} \times 2 = 132 \text{ 本}$

$V = 132 \text{ 本} \times 1.2\text{m} \times 0.15\text{m} \times 0.2\text{m} = 4.752\text{m}^3$

レール長 = スライドセントル長 × 3 スパン × 2

レール供用日数 (1 回当り) = 全供用日数 ÷ (使用延長 ÷ セントル延長)

ただし、移動用のレール及び枕木の損料はスライドセントル損料に含まれているので計上しない。

## 4-8 工所用仮設備

## 4-8-1 空気圧縮機

## (1) 空気圧縮機容量

空気圧縮機の容量は、次表を標準とする。

表 4.43 空気圧縮機容量

機種	規格	単位	台数
空気圧縮機	定置式スクリュ型 11.0~12.4m <sup>3</sup> /min×0.7~0.85MPa×75kW	台	2

## (2) 空気圧縮機の設置期間

空気圧縮機の設置期間は、掘削期間とする。

## (3) 空気圧縮機運転

## 1) 空気圧縮機の 1 月当り運転歩掛

空気圧縮機の 1 月当り運転歩掛は、次表とする。

表 4.44 空気圧縮機運転歩掛 (1 月当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	n×41.8	n は配置人員 (1 人)
空気圧縮機運転		h	234.2	

## 2) 空気圧縮機の電力消費量

空気圧縮機の電力消費量は、次のとおり。

空気圧縮機の電力消費量=7,771kWh/月

## (4) 空気圧縮機設備組立・解体

空気圧縮機設備組立・解体歩掛は、次表とする。

表 4.45 空気圧縮機設備組立・解体歩掛 (2 台当り)

名称	規格	単位	組立	解体
世話役		人	3.0	1.0
普通作業員		〃	4.0	2.5
機械工		〃	3.5	1.5
とび工		〃	1.5	—
電工		〃	2.5	0.5
特殊作業員		〃	1.0	1.0
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	1.5	1.0

(注) 1. 上記歩掛には基礎、建物は含まない。

2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

## 4-8-2 吹付プラント設備組立・解体

吹付プラント設備組立・解体歩掛は、次表とする。

表 4.46 吹付プラント設備組立・解体歩掛 (1基当り)

名称	規格	単位	組立	解体
世話役		人	9.0	5.0
特殊作業員		〃	9.5	3.0
普通作業員		〃	8.0	2.0
機械工		〃	6.5	2.5
とび工		〃	20.5	14.5
溶接工		〃	3.5	1.5
電工		〃	5.5	2.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	4.0	3.5

- (注) 1. 基礎コンクリートは、別途計上する。  
2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

## 4-8-3 スライドセントル組立・解体

スライドセントル組立・解体歩掛は、次表とする。

表 4.47 スライドセントル組立・解体歩掛 (1基当り)

名称	規格	単位	組立	解体
世話役		人	8.5	6.0
普通作業員		〃	7.0	2.0
機械工		〃	7.0	5.0
とび工		〃	17.5	13.5
特殊作業員		〃	40.5	20.0
電工		〃	5.0	1.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	7.0	5.5

- (注) 1. 移動用レール及び枕木の設置・撤去を含む。  
2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

## 4-8-4 防水作業台車組立・解体

防水作業台車組立・解体歩掛は、次表とする。

表 4.48 防水作業台車組立・解体歩掛 (1基当り)

名称	規格	単位	組立	解体
世話役		人	2.5	1.5
普通作業員		〃	1.5	1.0
機械工		〃	2.0	0.5
とび工		〃	2.5	2.0
特殊作業員		〃	10.5	3.5
電工		〃	1.5	—
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日	1.5	1.0

- (注) 1. 移動用レール及び枕木の設置・撤去は、スライドセントルの組立・解体歩掛に含む。  
2. トラッククレーンは、賃料とする。

## 4-8-5 工事中換気設備

- (1) 換気装置の坑内配置で、切羽の掘進に伴い、送風機を増設する場合の送風機間隔は 100m 以上を標準とする。
- (2) 切羽からの控え長さは、40m を標準とする。

## 4-8-6 送気管

- (1) 送気管材料は、つる巻鋼管  $\phi 150\text{mm}$  を標準とする。
- (2) 送気管 (トンネル用) の損料は、「建設機械等損料算定表」による。
- (3) 坑外送気管敷設・撤去  
坑外送気管敷設・撤去歩掛は、次表とする。

表 4.49 坑外送気管敷設・撤去歩掛 (m)

職種	単位	敷設	撤去
配管工	人	0.05	0.03

(注) 坑内の敷設・撤去労務は、掘削労務に含む。

## 4-8-7 仮設備保守

## (1) 仮設備保守編成人員

仮設備保守の要員として次表の編成人員を計上する。

表 4.50 仮設備保守編成人員

職種	単位	編成人員
普通作業員	人	1
機械工	〃	1
電工	〃	1

(注) 仮設備保守編成人員は、次の坑外設備の保守管理を行うものとする。

- ①電力設備 ②吹付プラント設備 ③換気設備
- ④空気圧縮機設備 ⑤給排水設備等 (濁水処理設備は除く)

## (2) 仮設備保守歩掛

仮設備保守歩掛は、次表とする。

表 4.51 仮設備保守歩掛 (1月当り)

職種	単位	数量	摘要
普通作業員	人	$n \times 41.8$	$n = \text{編成人員}$
機械工	〃	〃	
電工	〃	〃	

(注) 坑内作業において、支保工作業後は、上表の数量を「 $n \times 41.8 \times 1/2$ 」とする。

## 5. 単価表

## (1) 掘削等 (上半) 1m (トンネル延長) 当り単価表

掘削等&lt;掘削, 吹付, ロックボルト, 金網, 鋼製支保工&gt;

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役		人		表 4. 1
トンネル特殊工		〃		〃
トンネル作業員		〃		〃
自由断面トンネル掘削機運転	カッターヘッド出力 200~240kW	週		表 4. 3 機械運転単価表×5
ドリルジャンボ運転	トンネル工事用排出ガス対策型 ホイール式 2 ブーム ドリフタ質量 150kg 級	〃		表 4. 23 機械運転単価表×5
コンクリート吹付機運転	トンネル工事用排出ガス対策型 湿式一体型吐出量 6~20m <sup>3</sup> 級 吹付範囲半径 7m 級	〃		表 4. 19 機械運転単価表×5
ホイールローダ運転	トンネル工事用排出ガス対策型 サイドダンプ式山積 2. 3m <sup>3</sup> 級	〃		表 4. 8 機械運転単価表×5
吹付プラント設備運転	(バッチ型) 定置式 25m <sup>3</sup> /h	〃		表 4. 20 単価表(31)×5
諸雑費(その他機械)		式	1	表 4. 6
カッタービット	RM8-25	m		表 4. 5 単価表(9)
H 形鋼支保工		〃		表 4. 29~30 単価表(6)
ロックボルト		〃		※表 4. 22 単価表(8)
吹付コンクリート		〃		表 4. 17 単価表(7)
諸雑費 (その他材料)		式	1	表 4. 7
諸雑費		〃	1	
計				

※ロックボルトの本数については表 4. 24~26 による。

ただし、別表値と一致しないものについては、1m 当りの増減本数を計上する。



## (2) 掘削等 (下半) 1m (トンネル延長) 当り単価表掘削等&lt;掘削, 吹付, ロックボルト, 金網, 鋼製支保工&gt;

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役		人		表 4.1
トンネル特殊工		〃		〃
トンネル作業員		〃		〃
バックホウ運転	トンネル工事用 排出ガス対策型クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	週		表 4.9 機械運転単価表×5
ドリルジャンボ運転	トンネル工事用排出ガス対策型 ホイール式 2 ブーム ドリフタ質量 150kg 級	〃		表 4.23 機械運転単価表×5
コンクリート吹付機運転	トンネル工事用排出ガス対策型 湿式一体型吐出量 6~20m <sup>3</sup> 級 吹付範囲半径 7m 級	〃		表 4.19 機械運転単価表×5
吹付プラント設備運転	(バッチ型) 定置式 25m <sup>3</sup> /h	〃		表 4.20 単価表(31)×5
大型ブレーカ運転	トンネル工事用油圧式 1,300kg 級	〃		表 4.4 機械運転単価表×5
諸雑費(その他機械)		式	1	表 4.6
H 形鋼支保工		m		表 4.29~30 単価表(6)
ロックボルト		〃		※表 4.22 単価表(8)
吹付コンクリート		〃		表 4.17 単価表(7)
諸雑費(その他材料)		式	1	表 4.7
諸雑費		〃	1	
計				

※ロックボルトの本数については表 4.24~26 による。

ただし、別表値と一致しないものについては、1m 当りの増減本数を計上する。

## (3) ずり運搬工 (上・下半) ダンプトラック運転 1m (トンネル延長) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	坑内用普通ディーゼル 10t 積級	週		表 4.11~15 機械運転単価表×5
諸雑費		式	1	
計				

## (4) ○○○式集塵機運転 1m (トンネル延長) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
○○式集塵機運転	定格風量○○m <sup>3</sup> /min 級	週		表 4.21 機械運転単価表×5
諸雑費		式	1	
計				

## (5) 大型ブレーカ運転 1 日当り単価表 (こそく用)

名称	規格	単位	数量	摘要
燃料費		L		
大型ブレーカ損料	トンネル工事用油圧式 1,300kg 級	日	1	
諸雑費		式	1	
計				

## (6) H 形鋼支保工 1m (トンネル延長) 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
H 形鋼支保工 曲げ本体	SS400 H-〇〇〇	t		※表 4.29~30
諸雑費		式	1	
計				

※H 形鋼支保工の数量, 単価は本体のみとする。

## (7) 吹付コンクリート 1m (トンネル延長) 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
吹付コンクリート		m <sup>3</sup>		表 4.17
諸雑費		式	1	
計				

## (8) ロックボルト 1m (トンネル延長) 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ロックボルト (ドライモルタル含む)	耐力〇〇kN 以上 付属品含む L=〇m	本		表 4.24~26
注入急結剤	無収縮混和剤	〃		必要に応じて計上
諸雑費		式	1	
計				

## (9) カッタービット 1m (トンネル延長) 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
カッタービット	RM8-25	個		表 4.5
諸雑費		式	1	
計				

## (10) 覆工コンクリート工 1m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役		人	0.119	表 4.33
トンネル特殊工		〃	0.714	〃
トンネル作業員		〃	0.238	〃
コンクリートポンプ車運転	黒煙浄化装置付配管式 圧送能力 90~100m <sup>3</sup> /h	週		表 4.35 B/10 機械運転単価表×5
諸雑費(その他機械)		式	1	表 4.40
生コンクリート		m <sup>3</sup>		表 4.39
防水シート		m <sup>2</sup>		表 4.38 1.16×A
諸雑費(その他材料)		式	1	表 4.41
諸雑費		〃	1	
計				

A : 1m 当り防水シート面積

B : 表 4.44 コンクリートポンプ車 10m 当りの運転週数

## (11) 型枠工 (労務と機械) (覆工コンクリート) スライドセントル据付・移動・脱型 1m (トンネル延長) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役		人	0.119	表 4.32
トンネル特殊工		〃	0.714	〃
トンネル作業員		〃	0.238	〃
スライドセントル損料		m	1	表 4.36
諸雑費		式	1	
計				

## (12) 防水工 (労務と機械) 1m (トンネル延長) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役		人		表 4.31 0.06×A/10
トンネル特殊工		〃		表 4.31 0.17×A/10
トンネル作業員		〃		表 4.31 0.12×A/10
防水工作業台車	長さ 4.5m	m	1	表 4.37
諸雑費		式	1	
計				

A : 1m 当り防水シート面積

## (13) 空気圧縮機設備組立・解体 2 台当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 45
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
機械工		〃		〃
とび工		〃		〃
電工		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (14) 吹付プラント設備組立・解体 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 46
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
機械工		〃		〃
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
電工		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (15) スライドセントル組立・解体 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 47
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
機械工		〃		〃
とび工		〃		〃
電工		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (16) 防水作業台車組立・解体 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 48
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
機械工		〃		〃
とび工		〃		〃
電工		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (17) 坑外送気管敷設・撤去 1m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
配管工		人		表 4. 49
送気管 (つる巻鋼管)	φ 150mmt=1.6mm	m・供用日	1	
諸雑費		式	1	
計				

## (18) 坑内送気管損料 1m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
送気管 (つる巻鋼管)	φ 150mmt=1.6mm	m・供用日	1	
諸雑費		式	1	
計				

## (19) 仮設備保守費 1 月当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 4. 50, 表 4. 51
機械工		〃		〃
電工		〃		〃
諸雑費		式	1	
計				

## (20) 空気圧縮機設備運転 1 月当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
電力料		kWh	7, 771	
特殊作業員		人	41. 8	表 4. 44
空気圧縮機設備損料	定置式スクリュ型 11. 0~12. 4m <sup>3</sup> /min×0. 7~ 0. 85MPa×75kW	h	234. 2	〃
諸雑費		式	1	
計				

## (21) 送風機運転 1 式当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
電力料		kWh		
送風機損料		日		
風管		m		
諸雑費		式	1	
計				

## (22) 給水設備運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
電力料		kWh		
小型多段遠心ポンプ	65mm×45m×5.5kW	台・日	1	表 3.7
水槽	鋼板製 20m3	供用日	1.4	//
諸雑費		式	1	
計				

## (23) 排水設備運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
電力料		kWh		
工事用水中ポンプ	50mm×20m×2.2kW	台・日	4	表 3.8
諸雑費		式	1	
計				

## (24) 吹付プラント設備運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
電力料		kWh		
コンクリートプラント	(バッチ型) 定置式 25m3/h	供用日		
セメントサイロ	30t	//		
骨材ホッパ	15m3×3	//		
諸雑費		式	1	
計				

## (25) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
自由断面トンネル掘削機	カッターヘッド出力 200~240kW	機-25	燃料消費量 →617 機械損料数量 →1.4
ドリルジャンボ	トンネル工事用排出ガス対策型 ホイール式 2 ブーム ドリフト質量 150kg 級	機-25	燃料消費量 →201 機械損料数量 →1.4
コンクリート吹付機	トンネル工事用排出ガス対策型 湿式一体型 吐出量 6~20m <sup>3</sup> 級吹付範囲半径 7m 級	機-25	燃料消費量 →63 機械損料数量 →1.4
ホイールローダ	トンネル工事用排出ガス対策型 サイドダンプ式山積 2.3m <sup>3</sup> 級	機-24	燃料消費量 →68 機械損料数量 →1.4
バックホウ	トンネル工事用排出ガス対策型 クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	機-24	燃料消費量 →40 機械損料数量 →1.4
吹付プラント設備	(バッチ型) 定置式 25m <sup>3</sup> /h	機-25	燃料消費量 →19 機械損料数量 →1.4
大型ブレーカ	トンネル工事用油圧式 1,300kg 級	機-12	燃料消費量 →40 機械損料数量 →1.0
ダンプトラック	坑内用普通ディーゼル 10t 積級	機-32	燃料消費量 →121 機械損料数量 →1.4 タイヤの損耗費も計上
コンクリートポンプ車	黒煙浄化装置付 配管式圧送能力 90~100m <sup>3</sup> /h	機-24	燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.4
集塵機	定格風量○○○m <sup>3</sup> /min 級	機-14	燃料消費量 →必要分計上する 機械損料数量 →1.0

### 1)-3 トンネル濁水処理工

#### 1. 適用範囲

本資料は、トンネル (NATM 工法) 及びシールドの濁水処理に適用する。

##### 1-1 濁水処理設備

濁水処理設備は、機械処理脱水方式を標準とする。

また、濁水処理設備能力は、30~60m<sup>3</sup>/h 級を標準とする。なお 30~60m<sup>3</sup>/h 級以外を使用する場合は、別途考慮する。

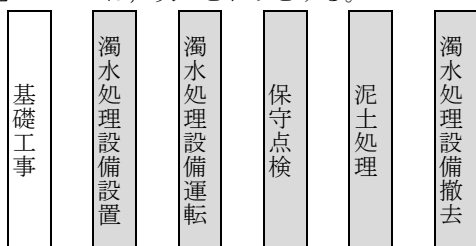
##### 1-2 使用薬剤

使用薬剤は、無機凝集剤、高分子凝集剤、炭酸ガスの 3 種類使用を標準とする。

なお、使用量については、別途計上する。

#### 2. 施工概要

標準施工フローは、次のとおりとする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2. 泥土処理は、脱水施設から発生する脱水ケーキの処理である。

3. 濁水処理設備の運転時間は、運転日当たり 24 時間を標準とする。また、加圧脱水機 (フィルタープレス式) の運転時間は、濁水処理設備の運転時間に含まれる。

なお、坑内排水にポンプが必要な場合は、「第 5 章トンネル工 (NATM) 1)3-8-5 給排水設備」により別途計上する。

#### 3. 施工歩掛

##### 3-1 濁水処理設備設置・撤去

濁水処理設備設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 濁水処理設備設置，撤去歩掛

(1 箇所当り)

名称	規格	単位	設置	撤去
世話役		人	4	3
電工		〃	4	1
設備機械工		〃	9	4
普通作業員		〃	5	3
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	2	1

(注) 1. 上屋の設置・撤去及び設備の基礎については、上記歩掛に含まない。

2. 上記歩掛には、設備の調整に要する費用を含む。

3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

4. 上屋が必要な場合は、仮設エートンネル仮設備工に別途計上する。

##### 3-2 濁水処理設備運転

濁水処理設備は、損料とする。



3-3 濁水処理設備の保守点検

濁水処理設備の保守点検は、次表を標準とする。

表 3.2 濁水処理設備保守点検歩掛 (1 回当り)

名称	単位	数量
設備機械工	人	0.2
普通作業員	〃	0.5
諸雑費	%	2

- (注) 1. 濁水処理設備の保守点検は、濁水処理設備運転日に 1 回実施を標準とする。  
 2. 保守点検は、濁水処理設備の日常の運転にかかわるすべての保守・点検を含む。  
 3. 諸雑費は、泥土 (濁水ケーキ) の積込みに要する費用であり、労務費の合計に上表を乗じた金額を上限として計上する。

3-4 泥土運搬

泥土 (脱水ケーキ) 運搬の歩掛は、次表を標準とする。

表 3.3 泥土運搬作業歩掛 (1 回当り)

運搬機種・規格	ダンプトラック 4t 積級				
DID 区間：無し					
運搬距離 (km)	6.0 以下	13 以下	19 以下	35 以下	60 以下
運搬日数 (日)	0.01	0.02	0.03	0.04	0.06
DID 区間：有り					
運搬距離 (km)	5.5 以下	12 以下	17 以下	27 以下	60 以下
運搬日数 (日)	0.01	0.02	0.03	0.04	0.06

- (注) 1. 泥土運搬は、濁水処理設備運転日に 1 回実施を標準とする。  
 2. 運搬距離が 60km を超える場合は、別途考慮する。  
 (運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合には平均値とする。)  
 3. 本歩掛は、泥土の残土受け入れ地等までの運搬のみであり、残土受け入れ地等での処理及び廃棄料等が必要な場合は、別途計上する。

4. 単価表

(1) 濁水処理設備置 1 箇所当り単価表 (処理能力 30~60m<sup>3</sup>/h 級)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	4	表 3.1
電工		〃	4	〃
設備機械工		〃	9	〃
普通作業員		〃	5	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	2	〃
諸雑費		式	1	
計				

(2) 濁水処理設備撤去 1 箇所当り単価表 (処理能力 30~60m<sup>3</sup>/h 級)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	3	表 3.1
電工		〃	1	〃
設備機械工		〃	4	〃
普通作業員		〃	3	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	1	〃
諸雑費		式	1	
計				

## (3) 濁水処理設備保守・点検 1 回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
設備機械工		人	0.2	表 3.2
普通作業員		〃	0.5	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

## (4) 泥土運搬 1 回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	4t 積級	日		表 3.3
諸雑費		式	1	
計				

## (5) 濁水処理設備運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
電力料		kWh		
濁水処理装置損料	各種	日	1	
諸雑費		式	1	
計				

## (6) 機械運転単価表

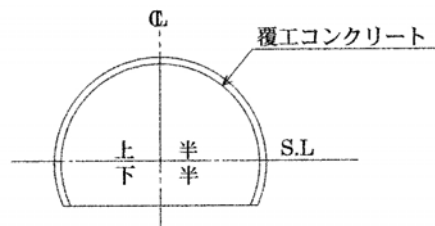
機械名	規格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	4t 積級	機-22	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →42 機械損料数量 →1.16
濁水処理装置 (ポータブル型・機械処理 沈殿方式・脱水機付)	処理能力 30m <sup>3</sup> /h 級 処理能力 60m <sup>3</sup> /h 級	機-14	電力消費量 →173 電力消費量 →351

## 1)-4 トンネル工 (NATM) 坑口工 (D パターン)

## 1. 適用範囲

- ①本資料は、土被りが小さく地山がアーチ作用によって保持できない坑口部で掘削分類がトンネル工 (NATM) の DIII 区分に適用する。
- ②掘削工法は、発破工法、機械掘削工法 (自由断面掘削機) に適用する。
- ③発破工法は、普通一般地質における上半先進ベンチカット工法に適用する。
- ④機械掘削工法は、岩石の一軸圧縮強度が、 $49\text{N/mm}^2$  ( $500\text{kgf/cm}^2$ ) 程度以下とする。
- ⑤隣接トンネルや住居近接トンネルで標準の工法が採用出来ない場合は、別途積算する。
- ⑥大断面トンネルにおける坑口工等で本資料により難しい場合は、別途考慮とする。
- ⑦ずり搬出方式は、タイヤ方式とする。
- ⑧掘削区分 A, E については、別途積算する。
- ⑨標準的な加背割りは、下図のとおりとする。

図 1.1 加背割図

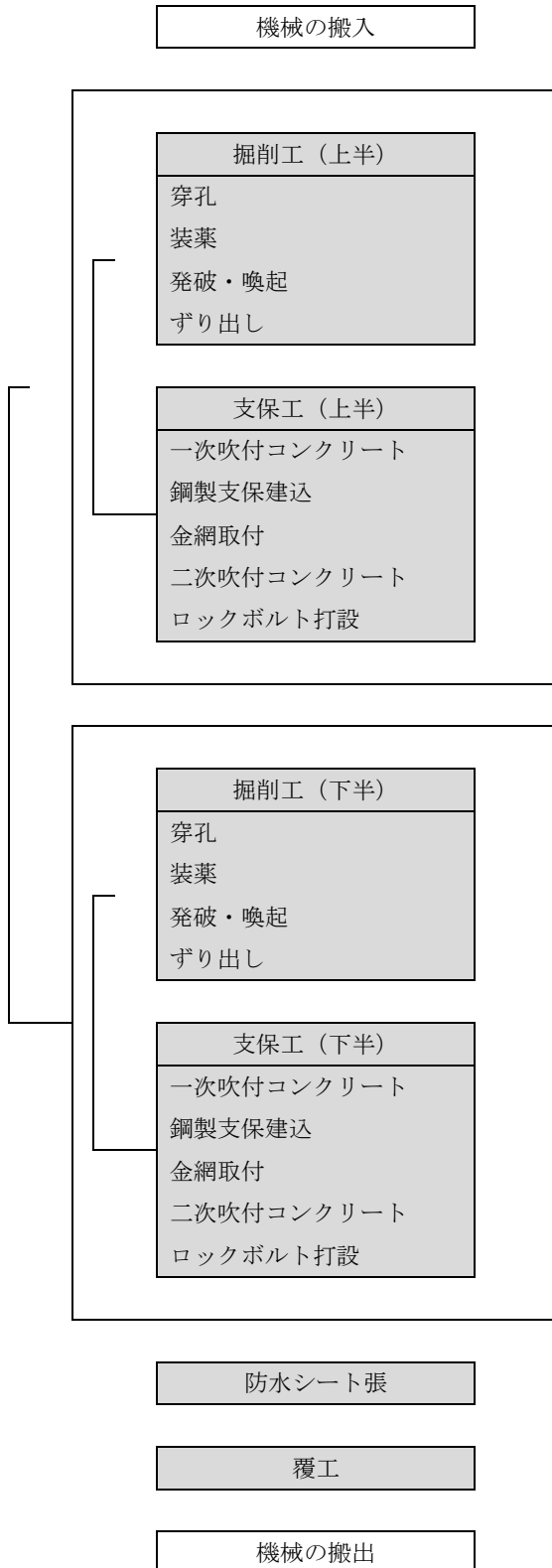


2. 施工概要

(1) 発破工法施工フロー

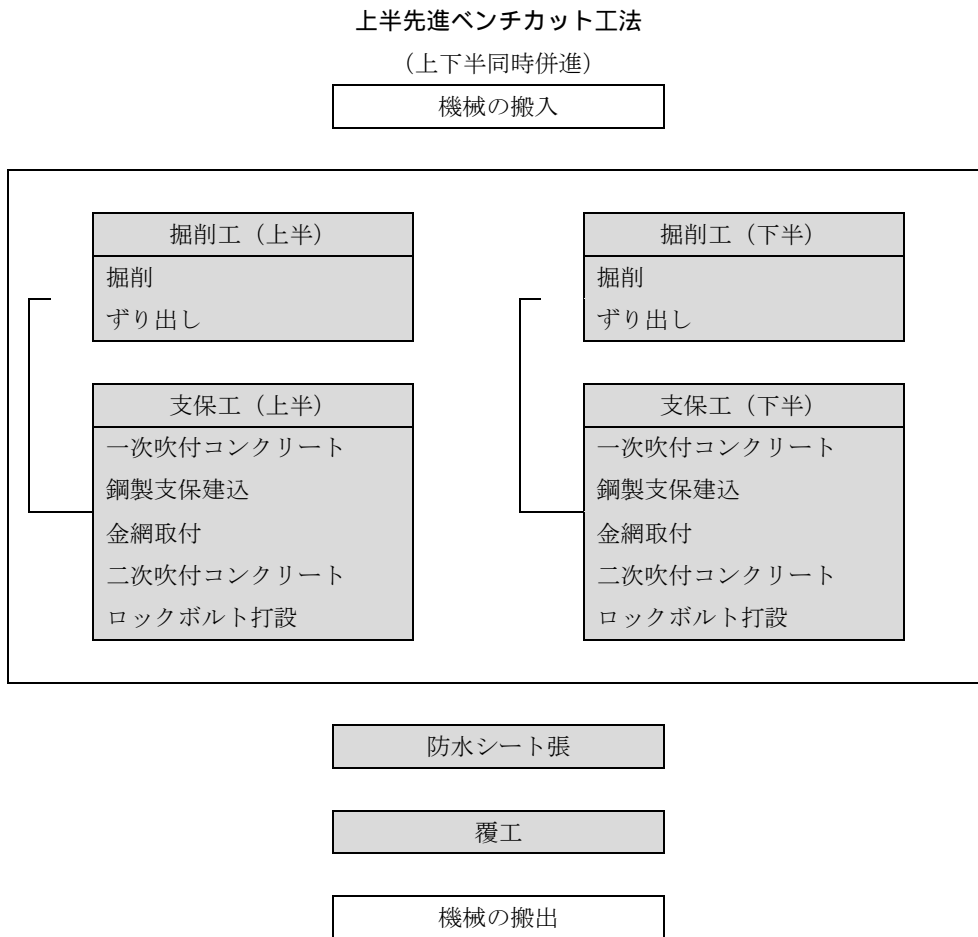
上半先進ベンチカット工法

(上下半交互併進)



(注) 本歩掛で対応しているのは着色部分のみである。

(2) 機械掘削工法施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは着色部分のみである。

3. 施工計画

3-1 掘削区分, 掘削方式及び掘削工法は, 次表を標準とする。

表 3.1 掘削区分, 掘削方式及び掘削工法

掘削方法	掘削区分	掘削方式	掘削工法
発破工法	D	上半先進ベンチカット工法 (ショートベンチカット工法)	上下半交互併進工法
機械掘削工法	D	〃	上下半同時併進工法

(注) 地山条件等により切羽の安定性の確立や地上の崩落防止等のために必要に応じて適切な補助工法を計上するものとする。

3-2 掘削分類

掘削分類は, 第 5 章 1)-1 トンネル工 (NATM) [発破工法] の表 3.2 の地山分類表による。

3-3 工事工程

3-3-1 工事工程表

工程表の決定にあたっては、トンネル延長、地質、地形、掘削方式及び掘削工法等を考慮して決定する。

3-3-2 時間当り作業量

時間当り掘進長は下表を標準とし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

なお、下表は 1 日当りの労働時間を 8 時間、2 方 (2 交替) ・週 5 日施工を標準としている。

表 3.2.1 時間当り作業量

(掘削工～支保工) (発破工法)

(m/時間当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積(m2)								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.216	0.205	0.196	0.197	0.188	0.184	0.181	0.172	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					0.450	0.425	0.403	0.383	0.364	0.347	

3-3-3 週当り作業量

週当り掘進長は下表を標準とし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

表 3.2.2 週当り作業量

(掘削工～支保工) (機械掘削工法)

(m/週当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積(m2)								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII	上半	15.80	14.87	14.44	13.66	12.96	12.64	12.04	11.76	下半は上半の設計掘削断面積で読み替える。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					—	—	—	—	—	—	

3-4 作業内容

3-4-1 作業内容 (発破工法)

作業内容 (発破工法) は、次表とする。

表 3.3.1 作業内容 (発破工法)

作業の区分	作業内容	摘要	
坑内	掘削作業、支保工作業 ずり運搬 (直送方式)		
	覆工作業	型枠工	
		コンクリート工	
	インバート工 防水工		
坑外	仮設備保守		

(注) 1. 支保工作業とは、吹付、金網、ロックボルト、鋼製支保工の総称である。

2. 「明り」の作業は、下記のものとする。

- ・地下排水工、路盤工、舗装工、側溝工
- ・坑門工、吹付プラント設備組立・解体、ずり出し (積替方式の場合の坑外運搬)
- ・スライドセントル組立・解体、防水工作業台車組立・解体
- ・ストックヤード設置・撤去、給排水設備設置・撤去
- ・濁水処理設備設置・撤去、坑外電力設備

## 3-4-2 作業内容 (機械掘削工法)

作業内容 (機械掘削工法) は、次表とする。

表 3.3.2 作業内容

作業の区分	作業内容		摘要
坑内	掘削作業, 支保工作業 ずり運搬 (直送方式)		
	覆工作業	型枠工	
		コンクリート工	
	インバート工 防水工		
坑外	空気圧縮機運転 仮設備保守		

(注) 1. 支保工作業とは、吹付、金網、ロックボルト、鋼製支保工の総称である。

2. 「明り」の作業は、下記のものとする。

- ・地下排水工, 路盤工, 舗装工, 側溝工
- ・坑門工, 吹付プラント設備組立・解体, ずり出し (積替方式の場合の坑外運搬)
- ・スライドセントル組立・解体, 防水工作業台車組立・解体
- ・空気圧縮機設備組立・解体, スtockヤード設置・撤去, 給排水設備設置・撤去
- ・濁水処理設備設置・撤去, 坑外電力設備, 坑外送気管敷設・撤去

## 3-5 余掘, 余巻及び余吹

トンネル工事では、設計断面どおり掘削することは困難であり、設計巻厚を確保するには、設計断面積より大きく掘削しなければならない。これを余掘といい、覆工及び吹付コンクリートで充填する。これをそれぞれ余巻及び余吹という。

この余掘を考慮した断面積の外周を支払線 (ペイライン) といい、当初から掘削と覆工及び吹付コンクリートの設計数量に見込むものとする。また、変形余裕を設計図面に明示した場合の設計掘削断面積は、変形余裕厚さを加算した面積とする。

なお、余掘, 余巻, 余吹及び設計吹付厚は、次表を標準とする。

表 3.4 余掘, 余巻及び余吹厚

(cm)

掘削方法	岩区分	余掘厚	余巻厚	余吹厚 (N1)
発破工法	DIII	17	10	7
機械掘削工法	DIII	13	8	5

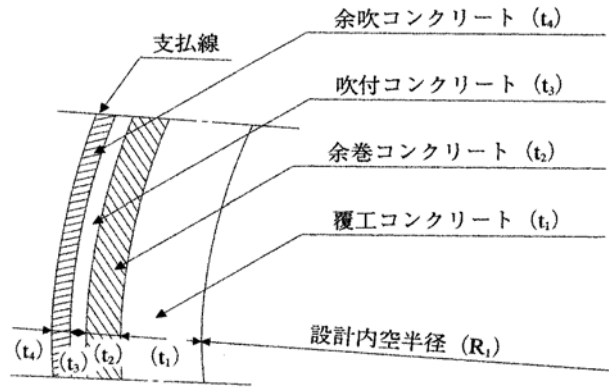
(注) 1. 設計巻厚, 設計吹付コンクリート厚及び設計掘削断面に対する割増し厚さである。

2. 非常駐車帯, 避難連絡坑等についても上表を適用する。

3. 変形余裕量を見込む場合は余掘, 余巻は上表より 5cm 減じ, 掘削断面に変形余裕量を加えるものとする。

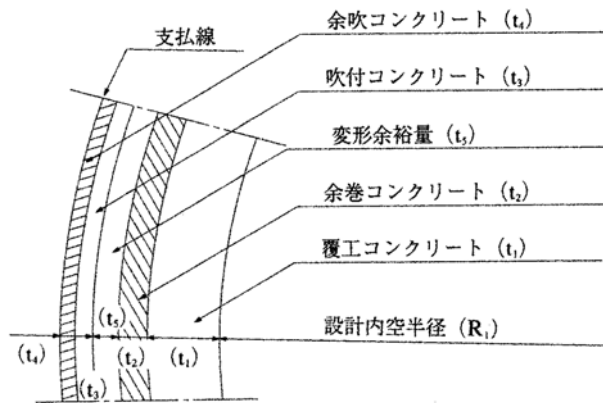
4. 設計値と支払線の関係は、次図を標準とする。

図 3.1 変形余裕を見込まない場合



設計掘削半径 = 設計内空半径 (R1) + 覆工コンクリート厚 (t1) + 吹付コンクリート厚 (t3)  
 支払掘削半径 = [ 設計内空半径 (R1) + 覆工コンクリート厚 (t1) + 吹付コンクリート厚 (t3) ] + 余掘  
 = 設計掘削半径 + 余掘  
 余掘 = 余巻コンクリート (t2) + 余吹コンクリート (t4)

図 3.2 変形余裕を見込む場合



設計掘削半径 = 設計内空半径 (R1) + 覆工コンクリート厚 (t1) + 吹付コンクリート厚 (t3) + 変形余裕量 (t5)  
 支払掘削半径 = [ 設計内空半径 (R1) + 覆工コンクリート厚 (t1) + 吹付コンクリート厚 (t3) + 変形余裕量 (t5) ] + 余掘  
 = 設計掘削半径 + 余掘  
 余掘 = 余巻コンクリート (t2) + 余吹コンクリート (t4)

3-6 トンネル工事の機械器具経費積算，工所用仮設備，工所用仮設備の計上，計測工，呼吸用保護具

発破工法については第 5 章 1)-1 トンネル工 (NATM) [発破工法] に，機械掘削工法については第 5 章 1)-2 トンネル工 (NATM) [機械掘削工法] に準拠すること。



4. 施工歩掛

4-1 掘削工等

4-1-1 坑口工 (D パターン)

(1) 掘削工等の労務歩掛

掘削等作業における労務歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 (掘削等) 施工歩掛 (発破工法) (人/(トンネル延長)1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.66	0.68	0.71	0.74	0.76	0.79	0.82	0.85	必要な断面積を上下半各々に計上する。
			3.93	4.09	4.25	4.42	4.59	4.77	4.91	5.10	
		0.66	0.68	0.71	0.74	0.76	0.79	0.82	0.85		
	下半	設計掘削断面積 (m2)	10	15	20	25	30	35			
			0.33	0.35	0.36	0.38	0.39	0.41			
			1.99	2.08	2.17	2.27	2.35	2.46			
			0.33	0.35	0.36	0.38	0.39	0.41			

上段 トンネル世話役  
 中段 トンネル特殊工  
 下段 トンネル作業員

歩掛の設定範囲  
 例)  
 $50m^2 \leq A1 = \text{上半} + \text{下半} \leq 95m^2$   
 中間断面 (70m<sup>2</sup>) の場合→67.5m<sup>2</sup> 以上 72.5m<sup>2</sup> 未満  
 上半の上端 (75m<sup>2</sup>) の場合→72.5m<sup>2</sup> 以上 75m<sup>2</sup> 以下  
 下半の下端 (10m<sup>2</sup>) の場合→10m<sup>2</sup> 以上 12.5m<sup>2</sup> 未満

- (注) 1. 掘削機械の運転手は、上記歩掛で行う。  
 2. 発破工法のずり出しにおいて運搬距離 (片押し延長+坑外片道運搬距離) が 1.2km を超える場合は、1.2km を超える部分に対し上表のトンネル特殊工 (中段) の施工歩掛を 1m 当り 1/6 の値を追加する。(下半は除く)  
 3. 掘削作業の編成人員は、次の作業を行うものとする。  
 ①削岩 ②ずり出し ③吹付 ④金網 ⑤ロックボルト ⑥鋼製支保工  
 ⑦坑内換気設備・設置・運転・撤去 ⑧集塵機運転 ⑨坑内送水管設置・撤去  
 ⑩給排水設備保守 ⑪坑内排水設備設置・運転・撤去 ⑫坑内運搬路等の保守  
 ⑬掘削の進行にともなう切羽照明・坑内照明・坑内排水設備・坑内換気設備・集塵機等の設置・撤去及び電気配管、配線  
 4. 火薬庫類の保安管理費は、必要に応じて共通仮設費の安全費で別途計上する。

表 4.2 (掘削等) 施工歩掛 (機械掘削工法) (人/(トンネル延長)1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時 併進工法	DIII	上半	0.63	0.66	0.69	0.72	0.75	0.78	0.81	0.85	
			3.15	3.30	3.45	3.62	3.77	3.92	4.05	4.23	
			0.63	0.66	0.69	0.72	0.75	0.78	0.81	0.85	
		下半	40	45	50	55	60	65	70	75	
			0.63	0.66	0.69	0.72	0.75	0.78	0.81	0.85	
			2.52	2.65	2.76	2.89	3.02	3.13	3.24	3.38	
0.63	0.66	0.69	0.72	0.75	0.78	0.81	0.85				

上段 トンネル世話役  
中段 トンネル特殊工  
下段 トンネル作業員

歩掛の設定範囲  
例)  
50m<sup>2</sup> ≤ A1 = 上半 + 下半 ≤ 95m<sup>2</sup>  
中間断面 (70m<sup>2</sup>) の場合 → 67.5m<sup>2</sup> 以上 72.5m<sup>2</sup> 未満  
上半の上端 (75m<sup>2</sup>) の場合 → 72.5m<sup>2</sup> 以上 75m<sup>2</sup> 以下  
下半の下端 (10m<sup>2</sup>) の場合 → 10m<sup>2</sup> 以上 12.5m<sup>2</sup> 未満

- (注) 1. 掘削機械の運転手は、上記歩掛で行う。  
2. 機械掘削工法のずり出しにおいて運搬距離 (片押し延長 + 坑外片道運搬距離) が 1.7km を超える場合は、1.7km を超える部分に対し、上表のトンネル特殊工 (中段) の施工歩掛を 1m 当りとして、1/5 の値を追加する。(下半は除く)  
3. 掘削作業の編成人員は、次の作業を行うものとする。  
① 削岩 ② ずり出し ③ 吹付 ④ 金網 ⑤ ロックボルト ⑥ 鋼製支保工 ⑦ 坑内送気管設置・撤去  
⑧ 坑内換気設備・設置・運転・撤去 ⑨ 集塵機運転 ⑩ 坑内送水管設置・撤去 ⑪ 給排水設備保守  
⑫ 坑内排水設備設置・運転・撤去 ⑬ 坑内運搬路等の保守  
⑭ 掘削の進行にともなう切羽照明・坑内照明・坑内排水設備・坑内換気設備・集塵機等の設置・撤去及び電気配管、配線

(2) 掘削機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 4.3 機種の選定 (発破工法)

施工区分	機種	規格	単位	数量	摘要
穿孔	ドリルジャンボ	トンネル工事用排出ガス対策型 ホイール式、3 ブーム 2 バスケット ドリフタ質量 170kg 級	台	1	
こそく	大型ブレーカ	トンネル工事用油圧式 1,300kg 級	〃	1	
ずり出し	ホイールローダ	トンネル工事用排出ガス対策型 サイドダンプ式山積 2.3m <sup>3</sup> 級	〃	1	ずり積込
	ダンプトラック	坑内用普通ディーゼル 10t 積級級	〃	n	ずり運搬
吹付	コンクリート吹付機	トンネル工事用排出ガス対策型 湿式吹付・吹付ロボット一体 エアコンプレッサ搭載 吹付範囲半径 7m 級・吐出量 8~22m <sup>3</sup>	〃	1	

- (注) 1. 掘削区分 D においては、上半・下半各々でダンプトラックの使用台数を計上する。  
2. ダンプトラックの規格は、4-1-2 ずり出し工 (3) ずり運搬工による。  
3. ドリルジャンボは、支保工作業においても併用使用する。ただし、下半については使用しない。

表 4.4 機種を選定 (機械掘削工法)

施工区分	加背	機種	規格	単位	数量	摘要
掘削ずり出し	上半	自由断面トンネル掘削機	最大掘削高 6.0m 掘削幅 6.4m カッターヘッド出力 200~240kW	台	1	
		ホイールローダ	トンネル工事用排出ガス対策型 サイドダンプ式山積 2.3m <sup>3</sup> 級	〃	1	ずり積込
	下半	大型ブレーカ	トンネル工事用油圧式 1,300kg 級	〃	1	
		バックホウ	トンネル工事用排出ガス対策型 クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	〃	1	ずり積込
ずり搬出	上半 下半	ダンプトラック	坑内用普通ディーゼル 10t 積級	〃	n	ずり運搬
ロックボルト	上半 下半	ドリルジャンボ	トンネル工事用排出ガス対策型 ホイール式 2 ブーム ドリフタ質量 150kg 級	〃	1	

(注) 1. 上半・下半各々でダンプトラックの使用台数を算出する。  
2. ダンプトラックの規格は、4-1-2 ずり出し工 (3) ずり運搬工による。

表 4.5 ドリルジャンボ (発破工法)

規格：トンネル工事用排出ガス対策型

ホイール式 3 ブーム, 2 バスケット, ドリフタ質量 170kg 超級 (週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.070	0.075	0.077	0.080	0.087	0.088	0.092	0.095	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.028	0.030	0.033	0.033	0.035	0.037	

表 4.6 自由断面トンネル掘削機運転 (機械掘削工法)

規格：最大掘削高 6.0m 掘削幅 6.4m

カッターヘッド出力 200~240kW (週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
		40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII 上半	0.050	0.054	0.057	0.061	0.065	0.070	0.074	0.076	

表 4.7 大型ブレーカ (発破工法)

規格：トンネル工事用油圧式 1,300kg 級

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.070	0.075	0.077	0.080	0.087	0.088	0.092	0.095	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.018	0.019	0.021	0.021	0.022	0.024	

表 4.8 大型ブレーカ (機械掘削工法)

規格：トンネル工事用油圧式 1,300kg 級

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )						摘要
		10	15	20	25	30	35	
上下半同時併進工法	DIII 下半	0.046	0.050	0.050	0.054	0.057	0.057	

(3) 材料等歩掛

1) 火薬

火薬は、含水爆薬（スラリー200g）を使用するものとし、その使用量は次表を標準とする。  
火薬使用量は、余掘を含めない設計掘削延長 1m に対するものとする。

表 4.9 火薬（発破工法）

(kg/（トンネル延長）1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半交互併進工法	DIII	上半	24.00	27.00	30.00	33.00	36.00	39.00	42.00	45.00	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					5.00	7.50	10.00	12.50	15.00	17.50	

2) 雷管

雷管の使用数は、次表とし、規格は段発電気雷管（2～5 段，6～10 段，3.0m 脚線付）を標準とする。

表 4.10

雷管（2～5 段）

(個/（トンネル延長）1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半交互併進工法	DIII	上半	28.0	31.5	35.0	38.5	42.0	45.5	49.0	52.5	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					10.0	15.0	20.0	25.0	30.0	35.0	

表 4.11

雷管（6～10 段）

(個/（トンネル延長）1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半交互併進工法	DIII	上半	28.0	31.5	35.0	38.5	42.0	45.5	49.0	52.5	

3) カッタービット

カッタービットの使用量は、下表を標準とする。

表 4.12 カッタービット（機械掘削工法）

(個/（トンネル延長）1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII	上半	1.68	1.89	2.09	2.30	2.50	2.71	2.91	3.11	

(4) 諸雑費

1) 諸雑費 (発破工法)

機械の諸雑費

諸雑費は、削岩及びロックボルト打設用のドリルジャンボのビット、ロッド、シャンクスクリュロッド、ジョイントスリーブ、及びこそく用の大型ブレイカのチゼルの損耗料等の費用及び、トラック、トラックミキサー及びアジテータトラック、モルタル注入機、積込補助用バックホウの損料及び燃料費であり、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.13 (掘削等) 諸雑費 (その他機械) (発破工法)

(%/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	8	8	8	8	8	8	8	8	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					15	15	15	14	14	14	

2) 諸雑費 (機械掘削工法)

機械の諸雑費

諸雑費は、ロックボルト打設用のドリルジャンボのビット、ロッド、シャンクスクリュロッド、ジョイントスリーブ、及び掘削用の大型ブレイカのチゼル損耗料等の費用及び、トラック、トラックミキサー及びアジテータトラック、モルタル注入機の損料及び燃料費であり、掘削等労務費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.14 (掘削等) 諸雑費 (その他機械) (機械掘削工法)

(%/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	10	9	9	9	9	9	9	9	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					14	13	12	11	10	9	

3) 材料の諸雑費

諸雑費は、金網工における金網 (JIS-G-3551 (溶接金網) 150×150×φ5, 2.13kg/m<sup>2</sup>)、ラップロス、止め金具等の費用、鋼製支保工における H 形鋼 (R 止まり・基数エキストラ)、継手板・底板、及びボルト・ナット、継材、さや管、加工費 (溶接・穴開け) 等の費用であり、材料費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.15 (掘削等) 諸雑費 (その他材料) (発破工法)

(%/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	6	6	6	6	6	6	5	5	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					14	13	12	11	10	9	

表 4.16 (掘削等) 諸雑費 (その他材料) (機械掘削工法)

(%/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	7	7	7	7	6	6	6	6	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					17	16	15	14	14	13	

4-1-2 ずり出し工

(1) ずり出し方式

ずり出しは、直送方式を標準とし、積替方式の場合の積替場所から捨て場までは、一般の運搬工で積算する。なお、直送方式と積替方式の範囲は、運搬距離（片押し延長+坑外片道運搬距離）が 3.0km 程度が標準である。

(2) ずり積込工

ずり積込み用ホイールローダの歩掛は、次表を標準とする。

表 4.17 ホイールローダ（発破工法）

規格：トンネル工用排出ガス対策型

サイドダンプ式，山積 2.3m<sup>3</sup> 級

(週/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.070	0.075	0.077	0.080	0.087	0.088	0.092	0.095	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.018	0.019	0.021	0.021	0.022	0.024	

表 4.18 ホイールローダ（機械掘削工法）

規格：トンネル工用排出ガス対策型

サイドダンプ式，山積 2.3m<sup>3</sup> 級

(週/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.059	0.063	0.065	0.072	0.085	0.087	0.091	0.094	

表 4.19 バックホウ（機械掘削工法）

規格：トンネル工用排出ガス対策型

クローラ型山積 0.8m<sup>3</sup> (平積 0.6m<sup>3</sup>)

(週/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )						摘要
			10	15	20	25	30	35	
上下半同時併進工法	DIII	下半	0.048	0.059	0.076	0.083	0.087	0.091	

(3) ずり運搬工

1) ダンプトラックの規格及び使用台数

ダンプトラックの規格及び使用台数は、次表を標準とする。

表 4.20 ダンプトラックの規格及び使用台数

発破工法	ダンプトラック 10t 積級	$L \leq 0.5\text{km}$	$0.5 < L \leq 1.2\text{km}$	$1.2 < L \leq 1.4\text{km}$	$1.4 < L \leq 2.2\text{km}$	$2.2 < L \leq 3.0\text{km}$	
		3 台	4 台	4 台	5 台	6 台	
機械掘削 上半	ダンプトラック 10t 積級	$L \leq 0.8\text{km}$		$0.8 < L \leq 1.7\text{km}$		$1.7 < L \leq 2.7\text{km}$	$2.7 < L \leq 3.0\text{km}$
		2 台		3 台		3 台	4 台
機械掘削 下半	ダンプトラック 10t 積級	$L \leq 2.3\text{km}$				$2.3 < L \leq 3.0\text{km}$	
		2 台				3 台	

(注) L は運搬距離 (片押し延長+坑外片道運搬距離) とする。

2) ダンプトラックの歩掛

ずり積込み用ダンプトラックの歩掛は、次表を標準とする。

表 4.21 ダンプトラック運転 (発破工法)

規格: 坑内用普通ディーゼル 10t 積級

3 台当り  
 $L \leq 0.5\text{km}$   
週/m 当り

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互 併進工法	DIII	上半	0.210	0.225	0.231	0.240	0.261	0.264	0.276	0.285	必要な断面積を上下半各々に計上す す。
		設計掘削 断面積 (m <sup>2</sup> )	10		15	20	25	30	35		
		下半	0.054		0.057	0.063	0.063	0.066	0.072		

表 4.22 ダンプトラック運転 (発破工法)

規格: 坑内用普通ディーゼル 10t 積級

4 台当り  
 $0.5 < L \leq 1.2\text{km}$   
 $1.2 < L \leq 1.4\text{km}$   
週/m 当り

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互 併進工法	DIII	上半	0.280	0.300	0.308	0.320	0.348	0.352	0.368	0.380	必要な断面積を上下半各々に計上す す。
		設計掘削 断面積 (m <sup>2</sup> )	10		15	20	25	30	35		
		下半	0.054		0.057	0.063	0.063	0.066	0.072		

表 4.23 ダンプトラック運転 (発破工法)

規格: 坑内用普通ディーゼル 10t 積級

5 台当り  
 $1.4 < L \leq 2.2\text{km}$   
週/m 当り

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互 併進工法	DIII	上半	0.350	0.375	0.385	0.400	0.435	0.440	0.460	0.475	必要な断面積を上下半各々に計上す す。
		設計掘削 断面積 (m <sup>2</sup> )	10		15	20	25	30	35		
		下半	0.090		0.095	0.105	0.105	0.110	0.120		

表 4.24 ダンプトラック運転 (発破工法)

規格：坑内用普通ディーゼル 10t 積級

6 台当り  
2.2 < L ≤ 3.0km  
週 / (トンネル延長) 1m 当り

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
			40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.420	0.450	0.462	0.480	0.522	0.528	0.552	0.570	必要な断面積を上下半各々に計上す。	
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )			10	15	20	25	30		35
						0.108	0.114	0.126	0.126	0.132		0.144

表 4.25 ダンプトラック運転 (機械掘削工法)

規格：坑内用普通ディーゼル 10t 積級

2 台当り  
L ≤ 0.8km  
週 / (トンネル延長) 1m 当り

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.104	0.117	0.122	0.131	0.139	0.148	0.157	0.161	

表 4.26 ダンプトラック運転 (機械掘削工法)

規格：坑内用普通ディーゼル 10t 積級

3 台当り  
0.8 < L ≤ 2.7km  
週 / (トンネル延長) 1m 当り

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.157	0.176	0.183	0.196	0.209	0.222	0.235	0.242	

表 4.27 ダンプトラック運転 (機械掘削工法)

規格：坑内用普通ディーゼル 10t 積級

4 台当り  
2.7 < L ≤ 3.0km  
週 / (トンネル延長) 1m 当り

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要
			40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.209	0.235	0.244	0.261	0.279	0.296	0.313	0.322	

表 4.28 ダンプトラック運転 (機械掘削工法)

規格：坑内用普通ディーゼル 10t 積級

2 台当り  
L ≤ 2.3km  
週 / (トンネル延長) 1m 当り

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )						摘要
			10	15	20	25	30	35	
上下半同時併進工法	DIII	下半	0.083	0.100	0.109	0.126	0.139	0.152	

表 4.29 ダンプトラック運転 (機械掘削工法)

規格：坑内用普通ディーゼル 10t 積級

3 台当り  
2.3 < L ≤ 3.0km  
週 / (トンネル延長) 1m 当り

掘削方法	岩区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )						摘要
			10	15	20	25	30	35	
上下半同時併進工法	DIII	下半	0.124	0.150	0.163	0.189	0.209	0.228	

4-1-3 その他

明り作業の掘削

明り作業の掘削は、「第 II 編第 1 章土工 2) 土工 (施工パッケージ) 及び 3) 機械土工 (土砂, 岩石)」による。



4-2 支保工

4-2-1 コンクリート吹付工

(1) 吹付工法

吹付工法は、湿式工法を標準とする。

(2) 吹付コンクリート量

掘削 1m 当り吹付コンクリート量は、次表を標準とする。

表 4.30 吹付コンクリート (発破工法)

(m<sup>3</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	6.89	7.25	7.61	8.01	8.37	8.73	9.09	9.50	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.78	1.02	1.27	1.52	1.77	2.02	

表 4.31 吹付コンクリート (機械掘削工法)

(m<sup>3</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	6.45	6.82	7.19	7.56	7.93	8.30	8.67	9.04	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.77	1.02	1.27	1.52	1.77	2.03	

(3) 設計吹付厚及びロス率

設計吹付厚及びロス率は、次表を標準とする。

表 4.32 設計吹付厚及びロス率

掘削方法	加背名	掘削区分	設計吹付厚 (cm)	余吹厚	はね返り率	ロス率
発破工法	上半	DIII	25	7	30%	1.8
	下半		25	7	20%	1.6
機械掘削工法	上半	DIII	25	5	30%	1.7
	下半		25	5	20%	1.5

(注) 1. ロス率には、材料ロス、はねかえり損失、余吹等によるロスを含む。  
 2. 大断面等で標準と異なる場合のロス率については、次式によるものとする。  

$$\text{ロス率 (K)} = (\text{設計吹付厚} + \text{余吹厚}) / (\text{設計吹付厚} \times (1 - \text{はね返り率}))$$

(4) コンクリート吹付機の運転時間

掘削 1m 当りのコンクリート吹付機運転時間は、次表を標準とする。

表 4.33 コンクリート吹付機 (発破工法)

規格：トンネル工専用排出ガス対策型

湿式吹付・吹付ロボット一体・エアコンプレッサ搭載

吐出量 8~22m<sup>3</sup> 級・吹付範囲半径 7m 級

(週/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.070	0.075	0.077	0.080	0.087	0.088	0.092	0.095	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.018	0.019	0.021	0.021	0.022	0.024	

表 4.34 コンクリート吹付機 (機械掘削工法)

規格：トンネル工用排出ガス対策型

湿式一体型吐出量 6~20m<sup>3</sup> 級吹付範囲半径 7m 級

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.050	0.052	0.054	0.057	0.061	0.061	0.065	0.065	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.035	0.039	0.041	0.044	0.048	0.050	

(5) 吹付プラント設備の運転時間

掘削 1m 当りの吹付プラント設備運転時間は、次表を標準とする。

表 4.35 吹付プラント設備 (発破工法)

規格：(バッチ型) 定置式 25m<sup>3</sup>/h

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.070	0.075	0.077	0.080	0.087	0.088	0.092	0.095	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.018	0.019	0.021	0.021	0.022	0.024	

表 4.36 吹付プラント設備 (機械掘削工法)

規格：(バッチ型) 定置式 25m<sup>3</sup>/h

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.070	0.074	0.076	0.081	0.085	0.087	0.091	0.094	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.065	0.072	0.076	0.083	0.087	0.091	

(6) 粉塵抑制剤

粉塵抑制剤は必要に応じて、別途計上する。

(7) 集塵機

1) 吹付時の粉塵対策として、集塵機を使用することを標準とする。

2) 集塵機の機種を選定

集塵機は、作業環境を考慮し必要となる機種規格を選定する。

3) 集塵機の運転時間

掘削 1m 当りの集塵機運転時間は、次表を標準とする。

4) 集塵機の設置期間における留意事項

発破工法の場合、集塵機は坑口より 30m 掘進した時より貫通するまでの期間、設置するものとする。

表 4.37 集塵機装置運転 (発破工法)

規格：○○○式、定格風量○○○m<sup>3</sup>/min 級

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.070	0.075	0.077	0.080	0.087	0.088	0.092	0.095	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )		10	15	20	25	30	35	
					0.018	0.019	0.021	0.021	0.022	0.024	

表 4.38 集塵機装置運転 (機械掘削工法)

規格：○○○式、定格風量○○○m<sup>3</sup>/min 級

(週 / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.072	0.074	0.078	0.083	0.085	0.089	0.091	0.096	必要な断面積を上下半各々に計上する。

4-2-2 ロックボルト工

(1) ロックボルトの使用区分

ロックボルトの使用区分は、次表を標準とする。

表 4.39 ロックボルトの使用区分

掘削区分	ロックボルトの長さ×周方向間隔×延長方向間隔	材質
DIII	4.0×1.2×1.0 以下	ねじり棒鋼と同等以上 (耐力 176.5kN (18t) 以上)

※先受けボルトの規格は、異形棒鋼 (SD345) D25mm を標準とする。

(2) ドリルジャンボの運転時間

ドリルジャンボ運転時間は、次表を標準とする。

表 4.40 ドリルジャンボ (機械掘削工法)

規格：トンネル工用排出ガス対策型

ホイール式 2 ブーム, ドリフタ質量 150kg 級

(週/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.087	0.091	0.094	0.098	0.102	0.104	0.109	0.111	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					0.039	0.044	0.046	0.048	0.050	0.052	

(3) ロックボルトの使用数量

ロックボルトは、ドライモルタルを含むものとし、その使用量は次表を標準とする。

表 4.41 ロックボルト (発破工法)

規格：耐力 176.5kN 以上 (18t) 付属品含む L=4m

(本/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	

表 4.42 ロックボルト (機械掘削工法)

規格：耐力 176.5kN 以上 (18t) 付属品含む L=4m

(本/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		下半	設計掘削断面積 (m2)		10	15	20	25	30	35	
					4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	

表 4.43 先受けボルト (発破工法)

規格：異形棒鋼 (SD345) D25mm L=3m

(本/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要
		40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半交互併進工法	DIII 上半	17.50	19.00	20.50	22.00	23.50	25.00	26.00	28.00	

表 4.44 先受けボルト (機械掘削工法)

規格：異形棒鋼 (SD345) D25mm L=3m

(本/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)								摘要
		40	45	50	55	60	65	70	75	
上下半同時併進工法	DIII 上半	17.50	19.00	20.50	22.00	23.50	25.00	26.00	28.00	

(4) ロックボルト工のモルタル材料及び使用量

ロックボルト工のモルタル材料はドライモルタルを標準とし、使用量は次表とする。

表 4.45 ロックボルト工のモルタル材料使用量 (100m 当り)

名称	規格	単位	使用量
モルタル	ドライモルタル	m <sup>3</sup>	0.22

(注) ロスを含む。

(5) 注入急結剤

注入急結剤 (無収縮混和剤) の使用は、湧水がある場合、1 本/孔を標準とする。ただし、現場条件によっては、別途考慮することが出来る。

4-2-3 鋼製支保工

(1) 鋼製支保工の使用材料

鋼製支保工の使用材料は、次表を標準とする。

表 4.46 鋼製支保工の使用材料

名称	掘削区分	
	DIII @ 1.0m	
H 形鋼 (上半)	H-200×200×8×12 n=2	
継手板 (天端)	PL-230×230×16 n=2	
継手板	PL-230×230×16 n=4	
H 形鋼 (下半)	H-200×200×8×12 n=2	
底板	PL-300×300×19 n=2	

(2) 鋼製支保工の使用量は、次表を標準とする。

表 4.47 H 形鋼支保工 (発破工法)

規格: SS400 H-200

(t/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半交互併進工法	DIII	上半	0.764	0.803	0.843	0.888	0.928	0.968	1.008	1.053	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	10		15	20	25	30	35		
	下半			0.100	0.135	0.170	0.205	0.235	0.270		

表 4.48 H 形鋼支保工 (機械掘削工法)

規格: SS400 H-200

(t/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )								摘要	
		40	45	50	55	60	65	70	75		
上下半同時併進工法	DIII	上半	0.759	0.798	0.843	0.888	0.933	0.973	1.018	1.063	必要な断面積を上下半各々に計上する。
		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	10		15	20	25	30	35		
	下半			0.100	0.135	0.170	0.205	0.235	0.270		

4-3 補助工法

補助工法については、別途考慮。

## 4-4 インバート工

発破工法については第 5 章 1)-1 トンネル工 (NATM) [発破工法] に、機械掘削工法については第 5 章 1)-2 トンネル工 (NATM) [機械掘削工法] に準拠すること。

## 4-5 覆土工

## (1) 防水工施工歩掛

防水工の施工歩掛は、次表とする。

表 4.49.1 防水工施工歩掛 (発破工法) (10m<sup>2</sup> 当り)

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	0.03
トンネル特殊工	〃	0.15
トンネル作業員	〃	0.08

(注) 上表は、裏面排水設置労務を含む。ただし、裏面排水材料は別途計上とする。

表 4.49.2 防水工施工歩掛 (機械掘削工法) (10m<sup>2</sup> 当り)

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	0.06
トンネル特殊工	〃	0.17
トンネル作業員	〃	0.12

(注) 上表は、裏面排水設置労務を含む。ただし、裏面排水材料は別途計上とする。

## (2) 覆工, 防水工機械の機種を選定及び機械歩掛

覆工, 防水機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 4.50.1 機種を選定 (発破工法)

機種	規格	単位	数量
防水工作業台車	長 6.0m	台	1
スライドセントル	L=10.5m	基	1
コンクリートポンプ車	黒煙浄化装置付 配管式圧送能力 90~100m <sup>3</sup> /h	台	1

(注) 1. スライドセントルは、線形及び現場条件等により標準外になる場合は、別途考慮するものとする。

2. コンクリートポンプ車の作業能力は、17m<sup>3</sup>/h とする。

表 4.50.2 機種を選定 (機械掘削工法)

機種	規格	単位	数量
防水工作業台車	長 4.5m	台	1
スライドセントル	L=10.5m	基	1
コンクリートポンプ車	黒煙浄化装置付 配管式圧送能力 90~100m <sup>3</sup> /h	台	1

(注) 1. スライドセントルは、線形及び現場条件等により標準外になる場合は、別途考慮するものとする。

2. コンクリートポンプ車の作業能力は、17m<sup>3</sup>/h とする。

表 4.51 コンクリートポンプ車 (発破工法)

規格：黒煙浄化装置付

配管式圧送能力 90~100m<sup>3</sup>/h

(週/ (トンネル延長) 10m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半交互併進工法	DIII	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	

表 4.52 コンクリートポンプ車 (機械掘削工法)

規格：黒煙浄化装置付

配管式圧送能力 90~100m<sup>3</sup>/h

(週/ (トンネル延長) 10m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	DIII	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	0.065	

表 4.53 スライドセントル (発破工法)

規格：L=10.5m

(m/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半交互併進工法	DIII	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

表 4.54 スライドセントル (機械掘削工法)

規格：L=10.5m

(m/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	DIII	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

表 4.55 防水作業台車 (発破工法)

規格：L=6.0m

(m/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半交互併進工法	DIII	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

表 4.56 防水作業台車 (機械掘削工法)

規格：L=4.5m

(m/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要	
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95		
上下半同時併進工法	DIII	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

## (3) 材料等歩掛

## 1) 防水シート

防水シートの使用量は、次表を標準とする。

表 4.57 防水シート (発破工法)

(m<sup>2</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半交互併進工法	DIII	17.94	18.61	19.27	19.93	20.60	21.26	21.92	22.59	23.25	23.91	

表 4.58 防水シート (機械掘削工法)

(m<sup>2</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半同時併進工法	DIII	17.70	18.40	19.10	19.80	20.50	21.20	21.90	22.60	23.30	24.00	

## 2) 覆工コンクリート

覆工コンクリートの使用量 (ロスを含む) は、次表を標準とする。

表 4.59 生コンクリート (余巻を含む) (発破工法)

(m<sup>3</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半交互併進工法	DIII	8.07	8.37	8.67	8.97	9.27	9.57	9.86	10.17	10.46	10.76	

表 4.60 生コンクリート (余巻を含む) (機械掘削工法)

(m<sup>3</sup>/ (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半同時併進工法	DIII	7.61	7.91	8.21	8.51	8.82	9.12	9.42	9.72	10.02	10.32	

3) 諸雑費

1\_機械の諸雑費

諸雑費は、パイプレータの損料及び燃料費であり、機械損料及び運転の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.61 (覆工 + 防水) 諸雑費 (その他機械) (発破工法) ( % / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半交互併進工法	DIII	22	21	21	20	19	19	18	17	17	16	

表 4.62 (覆工 + 防水) 諸雑費 (その他機械) (機械掘削工法) ( % / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半同時併進工法	DIII	18	18	18	18	17	17	17	17	16	16	

2\_材料の諸雑費

諸雑費は、防水シート設置器具の損料及び妻板、土台、はく離剤等の費用であり、材料費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.63 (覆工 + 防水) 諸雑費 (その他材料) (発破工法) ( % / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半交互併進工法	DIII	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

表 4.64 (覆工 + 防水) 諸雑費 (その他材料) (機械掘削工法) ( % / (トンネル延長) 1m 当り)

掘削方法	岩区分	設計掘削断面積 (m2)										摘要
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
上下半同時併進工法	DIII	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

(4) 型枠工歩掛

(スライドセントル) (型枠の移動・据付・脱型作業) 施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.65.1 型枠の移動・据付・脱型作業の施工歩掛 (発破工法)

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	0.12
トンネル特殊工	〃	0.70
トンネル作業員	〃	0.23

(注) 1. 移動用レール及び枕木の移動、据付も含む。  
 2. 移動用レール及び枕木の損料は、スライドセントル損料に含まれている。

表 4.65.2 型枠の移動・据付・脱型作業の編成人員 (機械掘削工)

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	1
トンネル特殊工	〃	6
トンネル作業員	〃	2

(注) 1. 移動用レール及び枕木の移動、据付も含む。  
 2. 移動用レール及び枕木の損料は、スライドセントル損料に含まれている。



## (5) 覆工コンクリート打設歩掛

- 1) 発破工法における覆工コンクリート打設時の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.66.1 覆工コンクリート打設作業の施工歩掛 (発破工法)

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	0.11
トンネル特殊工	〃	0.68
トンネル作業員	〃	0.23

- 2) 機械掘削工法における覆工コンクリート打設時の編成人員は、次表を標準とする。

表 4.66.2 覆工コンクリート打設作業の編成人員

職種	単位	数量
トンネル世話役	人	1
トンネル特殊工	〃	6
トンネル作業員	〃	2

## (6) コンクリートの打設

型枠工及びコンクリート工における 1 打設長は、2 日で 10.5m を標準とする。

## 4-6 工事中用仮設備

発破工法については第 5 章 1)-1 トンネル工 (NATM) [発破工法] に、機械掘削工法については第 5 章 1)-2 トンネル工 (NATM) [機械掘削工法] に準拠すること。